大学共同利用機関法人
人間文化研究機構

第38回 人文機構シンポジウム

デジタル・ヒューマニティーズってなに？

～コンピュータがひもとく歴史の世界～

［日　時］
2020年1月25日(土)
13:00～16:30［12:30開場］

［会　場］
日比谷図書文化館
日比谷コンベンションホール（大ホール）

［主　催］
人間文化研究機構

［後　援］
文部科学省、日本デジタル・ヒューマニティーズ学会、
情報処理学会「人文科学とコンピュータ研究会」

［定　員］要事前申込
200名 ※手話通訳あり

［対　象］
一般

「源頼光苦悩の図」国立歴史民俗博物館蔵を一部改変

-申込み-
要事前申込

参加無料

プログラム

13:00 開会
主催者挨拶　平川　南（人間文化研究機構長）

13:05 趣旨説明
岸上 伸啓（人間文化研究機構理事）
「コンピュータが読む人間文化」

13:20 講演 1
後藤 真（国立歴史民俗博物館准教授）
「コンピュータが読む日本語」

13:55 講演 2
朝日 祥之（国立国語研究所准教授）
「コンピュータが読む写真」

14:30 休憩

14:45 コメント
司会：岸上 伸啓
北本 朝展（情報・システム研究機構 データサイエンス共同利用基盤施設 人文学オープンデータ共同利用センター センター長）
霜山 文雄（NHK 知財センター アーカイブス部チーフディレクター）
日下 九八（元ウィキペディア管理者）

15:30 休憩

15:45 総合討論
司会：岸上 伸啓
北本 朝展（情報・システム研究機構 データサイエンス共同利用基盤施設 人文学オープンデータ共同利用センター センター長）
霜山 文雄（NHK 知財センター アーカイブス部チーフディレクター）
日下 九八（元ウィキペディア管理者）
後藤　真（国立歴史民俗博物館准教授）
朝日 祥之（国立国語研究所准教授）

16:30 閉会
挨拶　岸上 伸啓（人間文化研究機構理事）

いま、人文学には新たな波が起こっています。その中の一つに人文学に情報学の手法を応用し、新たな発見や分析を行う「デジタル・ヒューマニティーズ」があります。コンピュータが、AI 技術等を駆使して古文書や写真など人文学の様々な資料を「読む」可能性が指摘されています。

コンピュータを使うことで、人文学はどのように変わるのでしょうか。そして、社会の中で人文学が果たす役割はどのようなものになるのでしょうか。

本シンポジウムでは、歴史資料のデータ化、研究者以外の人々もよってたかってコンピュータで資料を読む作業、AI の可能性などについてご紹介いたします。

「洛中洛外図屏風『歴博甲本』」国立歴史民俗博物館蔵を元としたキャラクター

申込方法

いずれかの
WEB サイトから
お申込みください。

人文機構 HP　Peatix

〈人文機構HP〉https://www.nihu.jp/ja/event/symposium/38
〈Peatix〉https://nihusymposium38.peatix.com
（ご利用には Peatix のアカウント登録が必要です）

お問合せ

第38回人文機構シンポジウム事務局
TEL：03-5925-2840（代表）
E-mail：nihu-sympo38@adthree.net

アクセス

- 東京メトロ 丸の内線・日比谷線「霞ヶ関駅」
  B2出口より徒歩約3分
- 都営地下鉄 三田線「内幸町駅」
  A7出口より徒歩約3分
- 東京メトロ 千代田線「霞ヶ関駅」
  C4出口より徒歩約3分